

新たな木材利用事例発表会

木材供給体制とJAS材生産の取り組み



KYOWA CONNECTS



協和木材株式会社

MON.29th.JAN.2024



会社概要

◆会社名 協和木材株式会社(KYOWA MOKUZAI CO.,LTD.)

◆代表取締役社長 佐川 広興

◆創業 1953年(昭和28年)

◆従業員数 480名(協和木材330名・門脇木材150名)

◆本社 東京都江東区

◆工場 ①埴工場：福島県東白川郡埴町

②集成材工場：福島県東白川郡埴町

③新庄工場：山形県新庄市

④門脇木材協和工場：秋田県大仙市

⑤門脇木材男鹿工場：秋田県男鹿市

⑤門脇木材男鹿工場

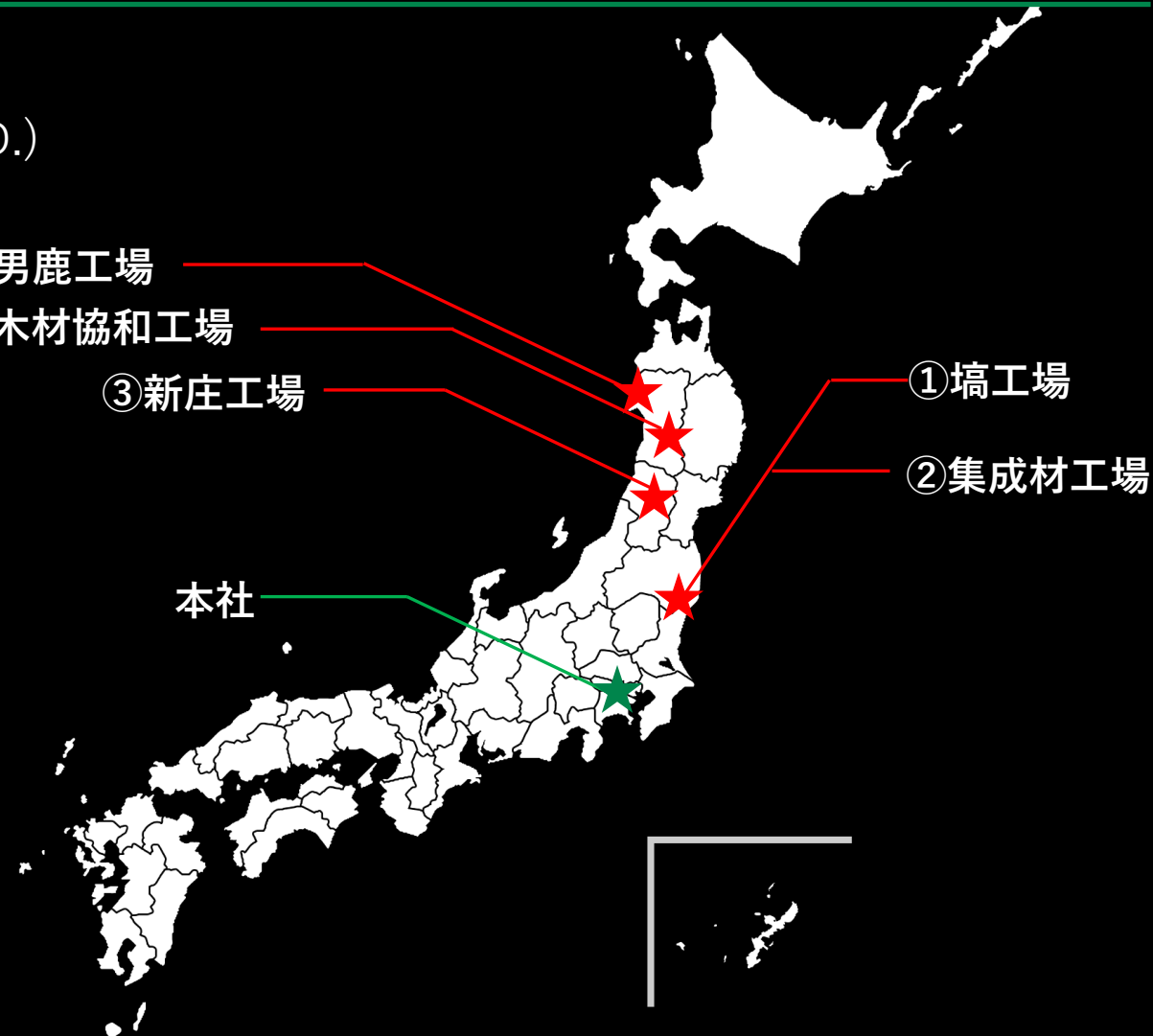
④門脇木材協和工場

③新庄工場

①埴工場

②集成材工場

本社



ALL国産材製材加工工場



沿革



◆ 創業 素材生産業から始まる

◆ 第一工場建設
 松・杉製材製品加工を開始

◆ 協和木材株式会社設立

◆ 第二工場建設
 杉製材開始

◆ 埴林間工業団地へ移転

◆ 農林水産杯天皇杯受賞

◆ 集成材工場稼働

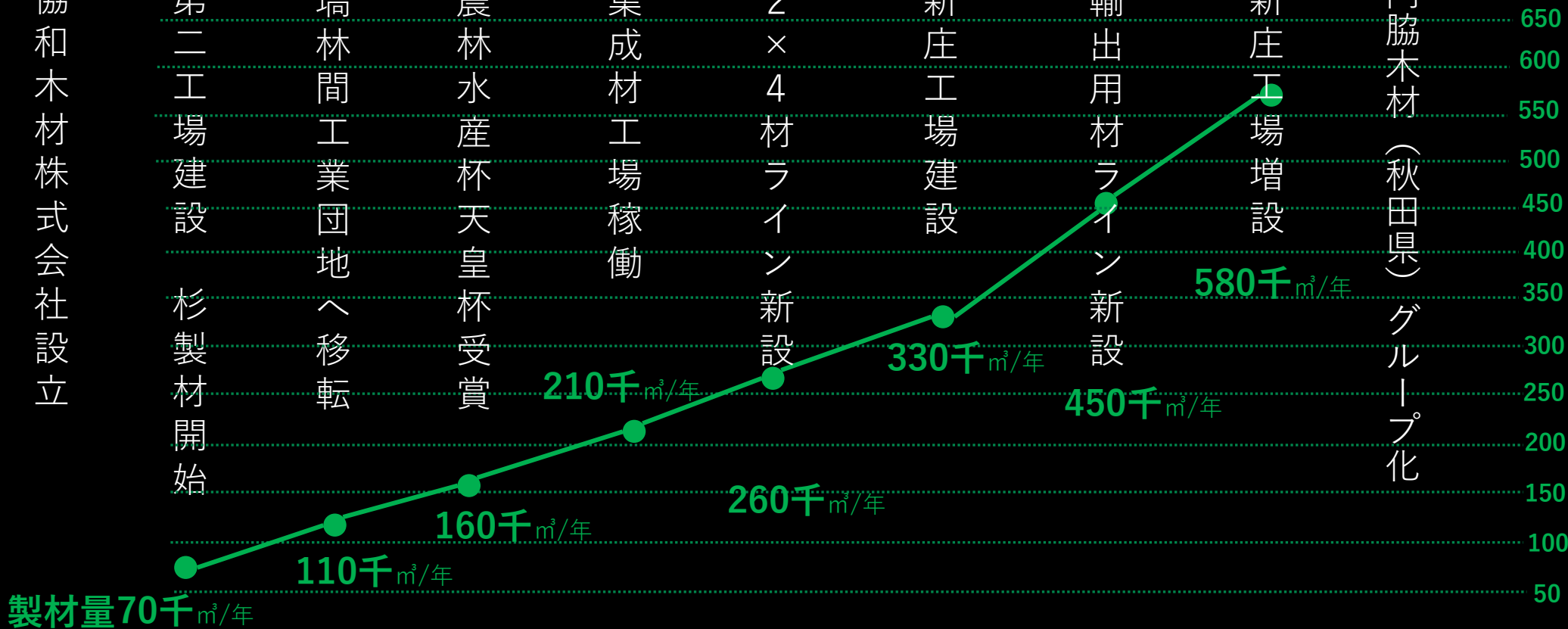
◆ 2×4材ライン新設

◆ 新庄工場建設

◆ 輸出用材ライン新設

◆ 新庄工場増設

◆ 門脇木材（秋田県）グループ化





木材供給体制—JAS認証4工場概要—

①埴工場（敷地面積 1.4 ha）

- ・製材設備
シングル台車 1 台、3, 4 m ツインバンドソー 3 台
6 m ツインバンドソー 1 台、1.4 連横バンドソー 1 台
- ・乾燥設備
1.2 t ボイラー 1 台、5 t ボイラー 2 台
（現在 1.5 t ボイラー 設置工事中）
中温乾燥機 30 台、高温乾燥機 9 台
（現在中温乾燥機 6 台 建設工事中）
- ・仕上ライン
柱モルダー、間柱・ツーバイモルダー、輸出材用モルダー
モルダーギャング

②埴集成材工場（敷地面積 8.5 ha）

- ・製材加工設備
チップーキャンター 2 台
- ・接着設備、仕上ライン
ラミナモルダー、FJライン、回転プレス 2 台、
高周波プレス 1 台、仕上モルダー

③新庄工場（敷地面積 1.2 ha）

- ・製材設備
チップーキャンター 2 台
- ・乾燥設備
1.2 t ボイラー 1 台、中温乾燥機 20 台
- ・接着設備、仕上ライン
ラミナモルダー、FJライン、回転プレス 2 台、仕上モルダー

④門脇木材協和工場

- ・製材加工設備
4 m ツインバンドソー 1 台
- ・乾燥設備
7 t ボイラー、高温乾燥機、中温乾燥機
- ・仕上ライン
モルダー 2 台

年間製品販売数量 23万³m



木材供給体制—集材と製品出荷—



■原木集材

工場から50km圏内での集材

[POINT]工場を中心に半径50kmの円の中にどれだけ資源があるか？

■製品出荷

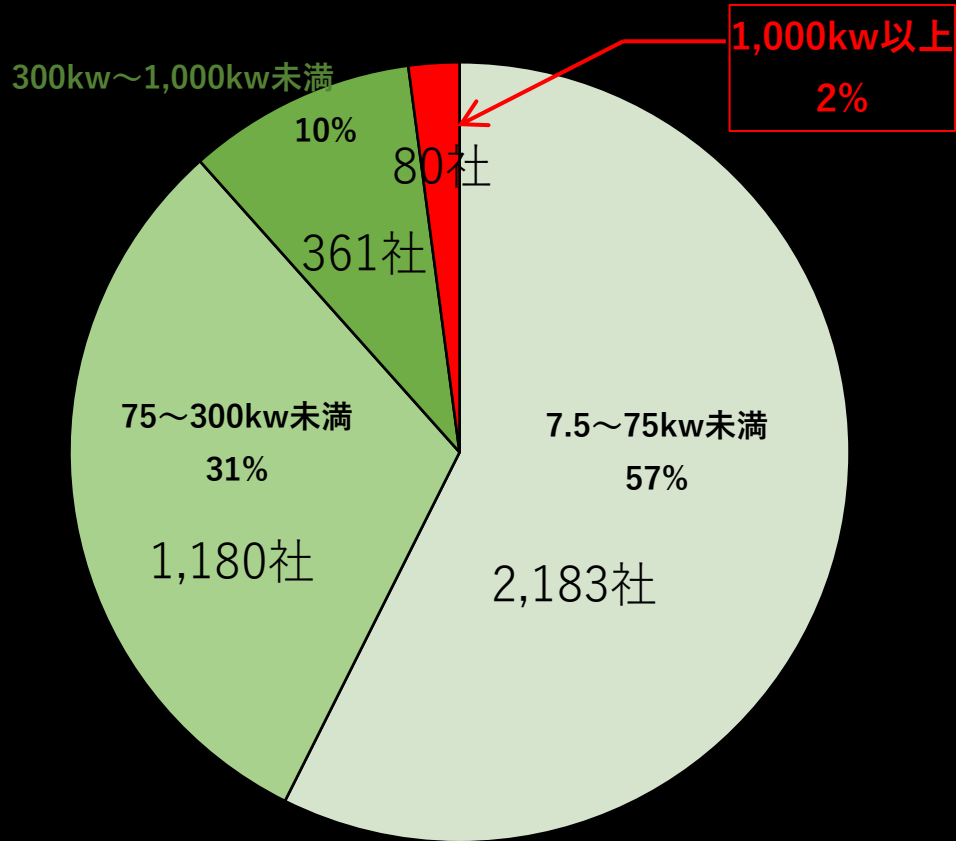
東北、北関東、名古屋以北の商圏

[POINT]いかに製造コストを下げ、輸送コストをカバーできるか？

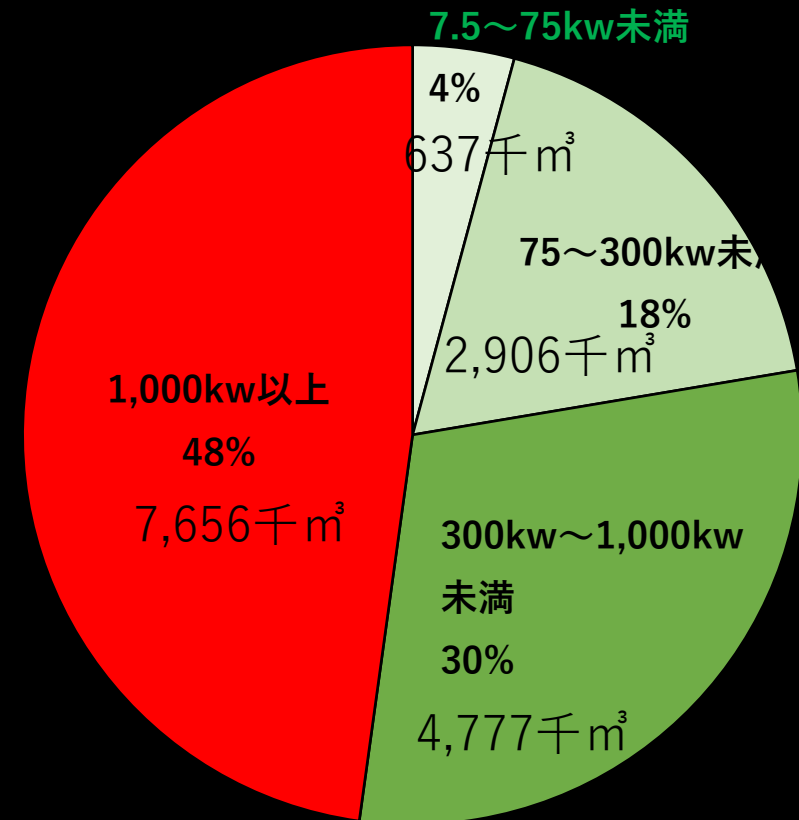


国内における当社の位置づけ

国内における製材工場(全3,804社)の出力階級別構成割合



製材用素材消費量(全16,000千m³)の出力階層別構成割合

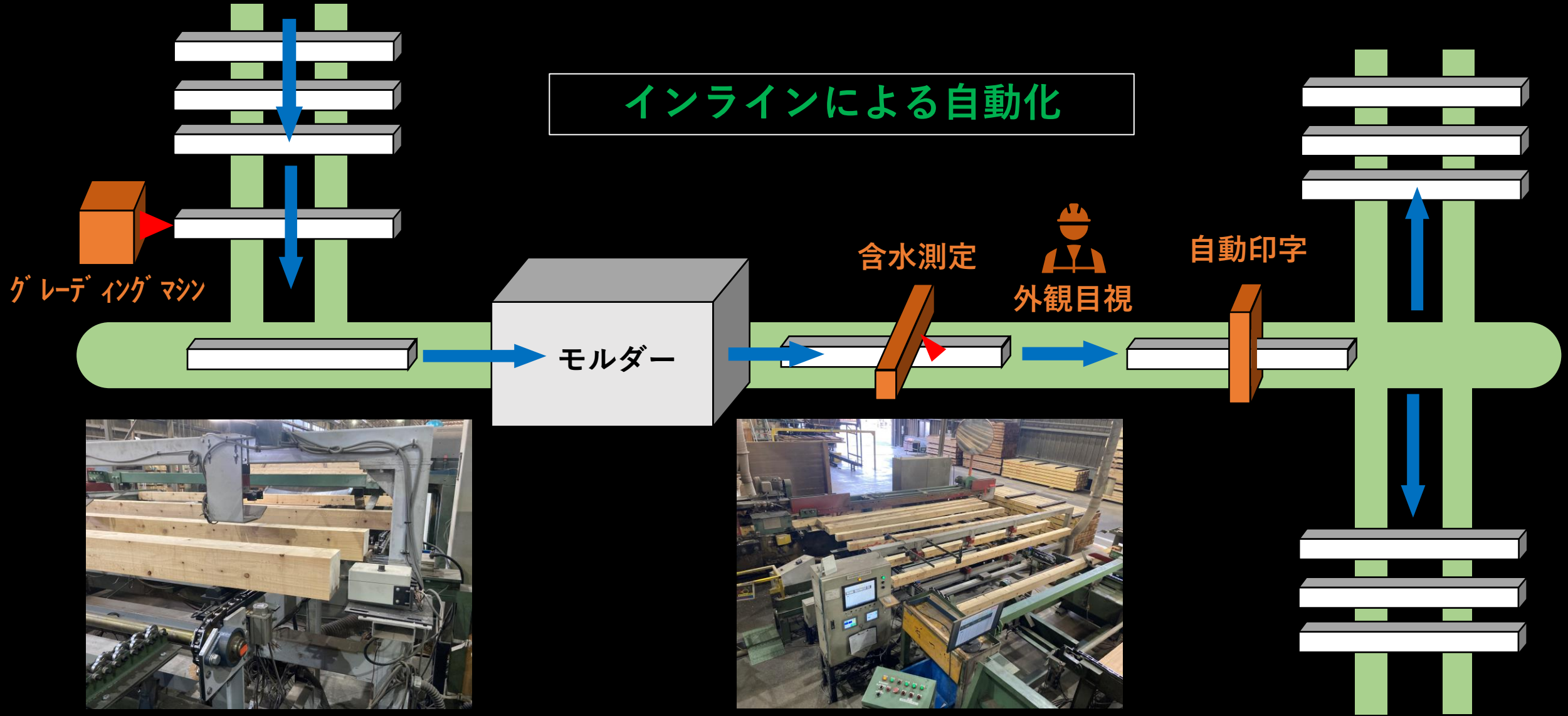


当社は大規模工場の位置づけ

農林水産省HP「令和4年木材統計」より

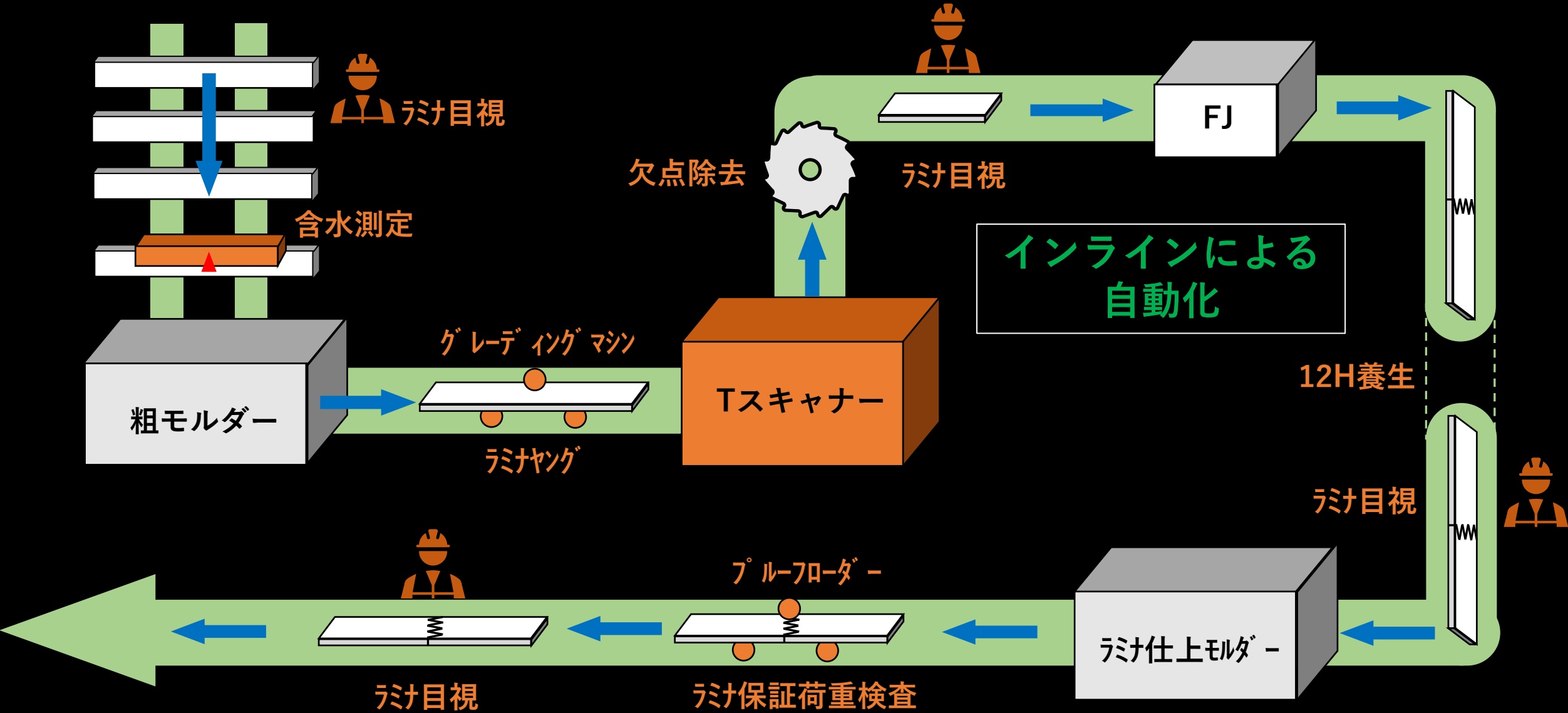


大規模工場におけるJAS材生産体制(無垢製品)



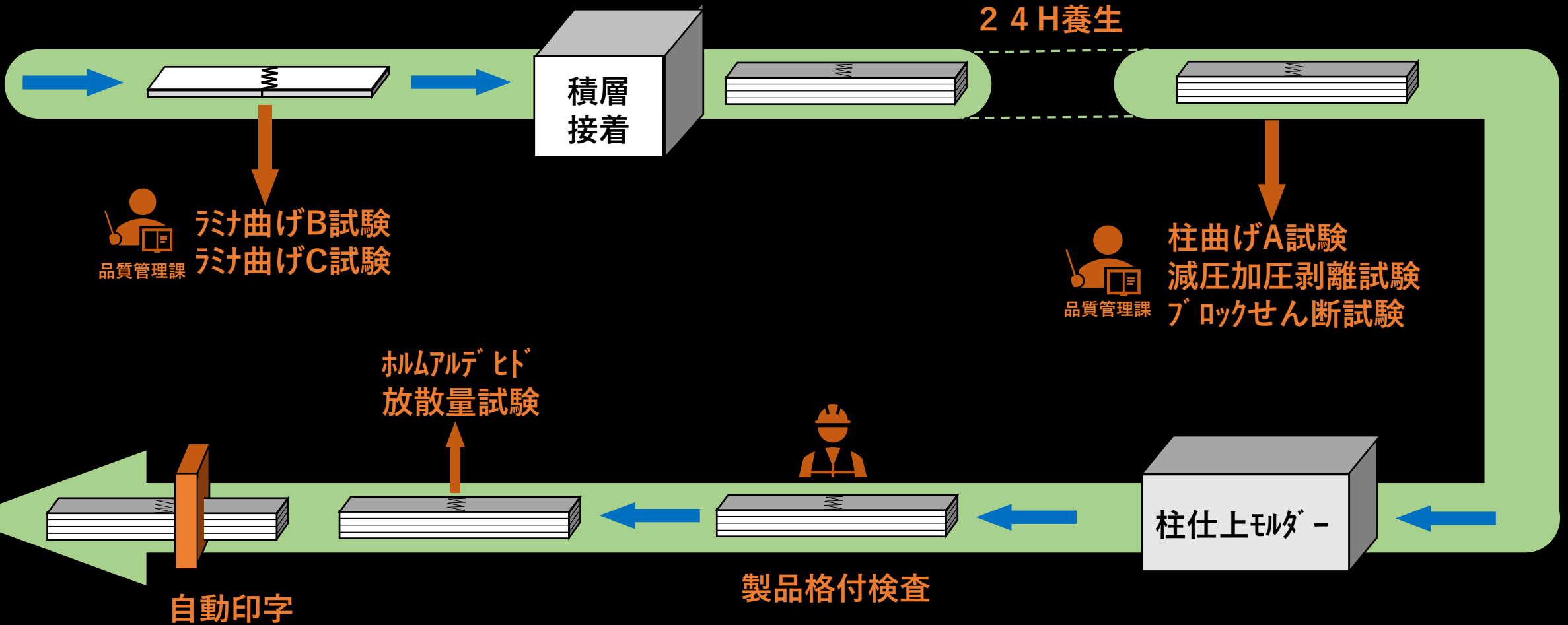


大規模工場におけるJAS材生産体制(集成材製品)





大規模工場におけるJAS材生産体制(集成材製品)





JAS材生産体制一年間製品出荷量

構造集成材	101,461m ³
構造用製材（機械等級）	16,394m ³
接着たて継ぎ材	4,872m ³
枠組壁工法構造用製材	21,513m ³
枠組壁工法構造用縦継ぎ材	5,830m ³
構造用製材（製材等）	38m ³

150,108m³
(2023年)

9割をJAS製品として出荷（輸出・側材を除く）



当社におけるJAS材生産とは

JASが普及しない要因

- ①JAS材を製造するのに初期費用と年間検査費用などがそれぞれ数十万円以上かかる。
- ②品質を確認して表示するという製造管理の手間がかかる。
- ③JASでない乾燥材との価格差がないこと。
- ④補助金の支給条件になる、製材に不具合があるとJASによって補償されるといった特典がないこと。

当社にとってのJAS製品とは・・・

- スギ製材を始めた1990年代より規格に関心
当時JIS規格における測定器にてヤングを計測（数値による明確化）
- 建設業界における各セグメントの責任範囲を明確にしたい
製造メーカーとして保証するべき対象



今後のJAS材生産

選別の自動化

